

鎌ヶ谷市市民活動推進センターだより

発行：鎌ヶ谷市市民活動推進センター 発行月：平成 24 年 11 月 No.28



左下の写真は今から 40 年ほど前の雪の日の囃子水。この頃は斜面林も田んぼもずっと先まで続いていました。田んぼをやめてから数年間は特に、ホタルが乱舞したそうです。時は流れて・・・右下の写真は同じ場所から撮影した現在の姿に近いものです。雨水貯留池及び公園として整備されましたが、かろうじて斜面林も残っています。何より現在でも、まだあちこちで湧き水が湧いているのを見ることができます。

「囃子水の自然を育てる会」は 1996 年から、この公園の湧き水や湿地などの自然環境を保護する活動を続けてきました。多くの生き物が生息できる水辺をめざしています。カワセミもえさを狙ってやってきます。

囃子水公園は、東武鎌ヶ谷駅から歩いて数分の住宅街にあります。会では、毎月第 4 日曜日午前 9 時より定例作業を行っています。ご案内もしますので、一度お越しください。

(囃子水の自然を育てる会・多紀晶子さん)



昭和 43 年



平成 10 年

囃子水の移り変わり

表紙の言葉と写真 囃子水の自然を育てる会 (多紀晶子さん)

市民活動団体に聞く 栗野の森の会 (小出達雄さん)



「森の在り方」と「会の在り方」を考える

森に対する考え方もいろいろありました・・・、森を残したい、という原点ではみんな一致していましたが、「一木一草とすることはまかりならん」という考えもありましたし、いやそうではなく「人が手を入れていく」ことで、自然が豊かになるんだという考えもありました。会自体としても、私としても、生態系を勉強していく中で、人が適正に手を入れていくことが必要だと考えるようになりました。

作業中の小出さん

2003年に、鎌ヶ谷市が「都市マスタープラン」として、栗野の森を自然保全型の公園とする計画（栗野地区公園計画 / 都市計画案）が発表されたとき、「栗野の森の会」は解散することもできたんですね。森を残す、という目的は果たせたわけですから・・・、解散という声こそ出ませんでしたけど、みんなで話し合いました。

どんな公園になるのか、ジャングルジムを作って、とかでは困りますね。タウンミーティングの中でも、サクラを植えてほしい、とか、ドッグランを作ってほしいとか、そういう声があがってましたので・・・。会としても、自然公園の在り方を勉強して、計画を提案していかなければいけないだろうという合意に至りました。



森の木漏れ日

「栗野の森の会」から「グリーンベルト」と「ネットワーク」へ



竹を割って道の整備

「栗野の森の会」の今後、これからについてですが、森のそばに、作業小屋のような、ビジターセンターのような・・・。簡単なものでいいんだけど、あったらなあ・・・。

森の材料や稲わらなんかを使って作業できる場所があったらいいなあ、と思っています。森の花が好きな人たちが集まって、話したりできる場所にもね。

あとは、緑のベルト、グリーンベルトっていうのかな、まわりにある市制記念公園にある森とか、国道464号線下の小さな森とか、市のスポーツセンターのところにある森とか、それぞれ異質なんだけど、带状に緑のベルトとして繋がって広がってほしいなあ、と思っています。

今いる野ウサギの行動半径も広がってほしいですね。

梨畑などの田園と森が一緒にあることで、生物の多様性も豊かになるでしょう。自衛隊の滑走路の周りも草原としては非常に有効なんですよ、草丈の短い草原として。鎌ヶ谷にはもういない、と言われていたマツムシが生息しているんですよ、そのことを報告したら（県のレッドデータを作成している）研究者がすぐ見に来ましたけどね。それと以前にも一度動きがあったんですが、市内の自然保護活動や里山整備に取り組んでいる団体とのネットワークも構築していきたいですね。

市民活動団体に聞く

栗野の森の会 (あわののもりのかい)

小出達雄さんに聞きました

「不法投棄」から「栗野の森を考える会」へ

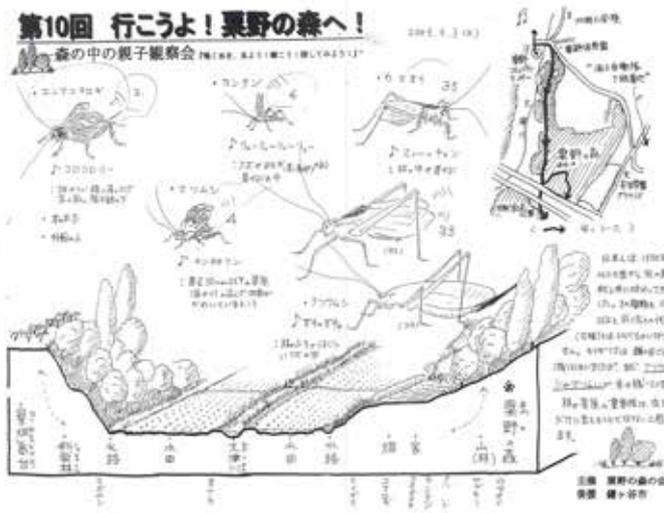
犬の散歩コースだったんです。
当時の栗野の森は、番線、針金が木に打ち付けて・・・、囲ってありました。
それでも、粗大ゴミが大量に捨てられていましたね。

森は全部伐られるというのは言われてました。
鎌ヶ谷市土地公社の所有だったんです。
「総合病院の建設」とか、「工業団地の誘致をする」とかっていうわさが・・・。

そんななか、多紀さんと佐藤さんが呼びかけ人になって、
森として残すことを目的とした「栗野の森を考える会」の立ち上げを呼びかけたんです。
私はそこに集まった10人のひとりでした。2001年3月のことです。

道野辺とか、中央とか、各地で行われるタウンミーティングに出席して
自分たちの意見を伝えていきました。この森を残してほしいと・・・。
そこで、少しずつ賛同者が増えていったんです。

そして、とにかく何かしなくっちゃ (笑) というので、ゴミ拾いや
「鳴く虫の会」を始めました。



作業日を知らせる旗



「行こうよ! 栗野の森へ」のチラシ

三回目の「鳴く虫の会」からは
鎌ヶ谷市のみどりのふれあい室 (現在の公園緑地課) が後援についてくれるようになりました。
「栗野の森を考える会」も「栗野の森の会」に変わりました。

あることも知られていない、どんな森かも知られていない・・・、
そんな状況だったので、「栗野の森」をとにかく知ってもらおう、そう思って活動してきました。
10人で始まった会も年々増えて今では46人になりました。

鳴く虫の会のほかにも、
植物観察会、生き物観察会、「水と緑の環境展」(離子水の自然を育てる会と共同でのパネル展)
などを定期的に行っていました。森の中での、竹炭作りや竹細工などもやってきました。

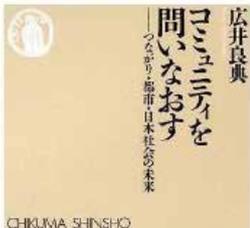
内閣府実施の「社会参加活動事例」事業において
「鼓調連」の皆さまが社会参加章を受章しました!!
9月28日市長応接室にて授章式が行われました。



社会参加章を受章した「鼓調連」は、平成11年に結成された和太鼓のサークルで、平均年齢は73歳。「地域が舞台」を合言葉に学校等で毎年30回ほど演技を披露しており、和太鼓のほかに様々な楽器を組み合わせて、実際に体験してもらいながら、観客の方が見ていて楽しい演技を目標に活動をしています。

「社会参加活動事例」高齢化の進む中、高齢者が年齢にとらわれず自ら責任と能力において自由に生き生きとした生活を送ることが重要となっています。地域社会活動等の社会参加活動を積極的に行っている事例を広く紹介することで、すでに高齢期を迎え、またはこれから迎えようとする世代の生活の参考に供することを目的として、毎年1回、内閣府よりこの事業が実施されています。

市民活動ブックガイド



コミュニティを問い直す
つながり・都市・
日本社会の未来
広井良典・著 (ちくま新書)

鎌ヶ谷市市民活動推進センター
では市民活動にまつわる図書の
閲覧ができます(貸し出しも可)

「生産のコミュニティ」と「生活のコミュニティ」
「農村型コミュニティ」と「都市型コミュニティ」
「空間コミュニティ(地域コミュニティ)」と「時間コミュニティ(テーマコミュニティ)」,ひとことでコミュニティといってもその定義には多様なものがある。本書は、「個人」がしっかりと独立しつつ、いかにして新たなコミュニティを創造するかを追求したもので、都市、グローバル化、社会保障、ケア、公共政策などの多様な観点から、新たな「つながり」を大胆に掘り下げている。これからの【地域】を考える上で重要な一冊。

スタッフから一言

地域の問題を地域のみんで協力して、解決に向かって行動していく、こんなことから市民活動は発生してきています。身近なところから市民活動を考えていきませんか? 私たちスタッフにお気軽に声を掛け下さい。(二瓶)

この6月よりセンタースタッフとして勤務している宮入と申します。鎌ヶ谷市に住んで約30年になりますが、市民活動については知らないことばかりで、勉強の日々です。市民の皆さまに、気持ち良く当センターをご利用いただけるようお手伝いしたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いたします。(宮入)

鎌ヶ谷市のセンターに関わり、早くも半年が経ちました。「住民」から「市民」へと変わっていくこと、誰かに依存するのではなく、自発的に地域の問題解決に取り組むこと。「市民自治」なんていうと難しく聞こえてしまいがちですが、わたしたちの身体が、ケガをしたときに自然と治癒していくような「機能」こそが市民活動だと思っています。火曜・日曜はセンターにあります。お気軽にお訪ねください。(プロジェクトマネージャー・加納)